

議事要旨入り

富岡地区円卓会議

自分ごとで考える“地域の居場所づくり”

第3回 令和5年11月11日

はじめにお読みください

本資料は、当日配布資料をもとに、議事要旨を加筆したものです。

なお、当日配布以降に加筆したページは、ページの枠上部を橙色にしてあります。

【凡例】

※当日配布のままのページ

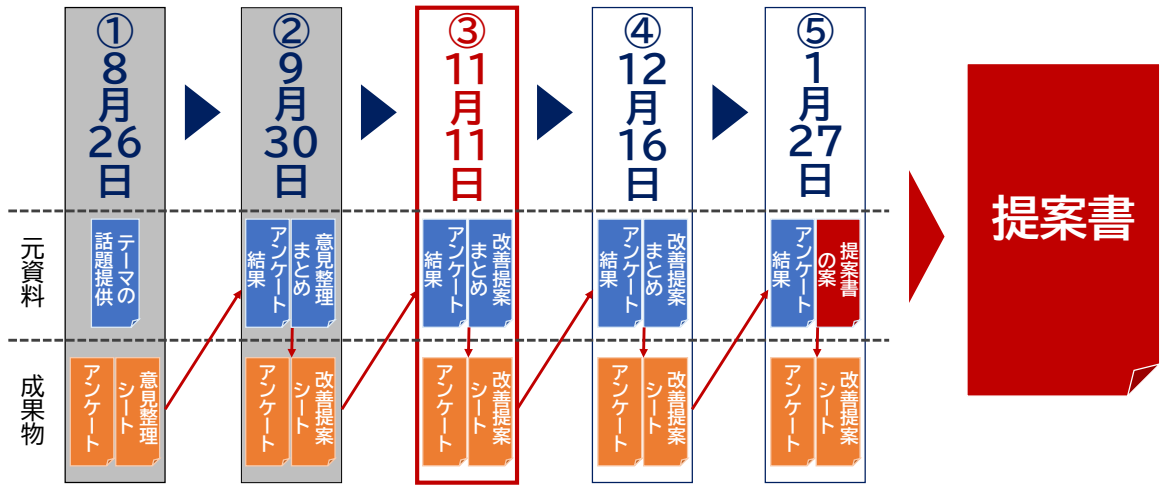


※加筆ページ



▶ 令和5年度 開催スケジュール

全5回の会議を経て、テーマにまつわる地域課題と改善提案をまとめた「富岡地区円卓会議からの提案書」を作ります。



これまでの振り返り

▶ 前回の成果

- ① アンケート
- ② 改善提案シート
 - 高齢者
 - 子ども・子育て
 - 障がい者とその家族
 - 若者・単身
 - 全般

▶ 前回の振り返り

第1回の意見を整理した内容から個別テーマを決めて話し合い、その結果、自分が感じたことをシートに記入しました

メインテーマ 地域の居場所づくり

グループ1 子ども・子育て

グループ2 未婚・単身・若者

グループ3 障がい

グループ4 高齢者



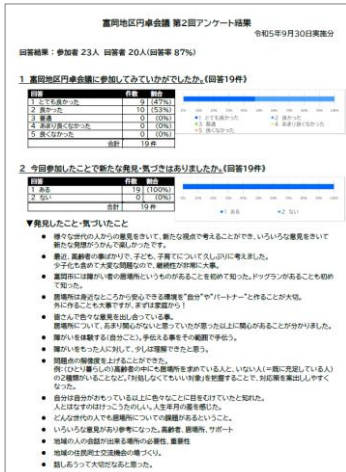
アンケート

改善提案
シート

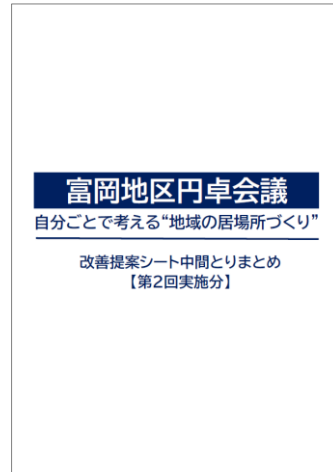
▶ 前回の振り返り

第2回の成果を詳しく確認してみましょう

① アンケート結果



② 改善提案シート結果



グループワークに向けて

▶ グループワークに向けて

これまでの成果をもとに、以下の4つを個別テーマとします
※出欠状況にあわせて、少しグループメンバーを調整しました

グループ1	子ども・子育て
グループ2	若者・単身
グループ3	障がい
グループ4	高齢者

▶ 課題と改善策の見つけ方

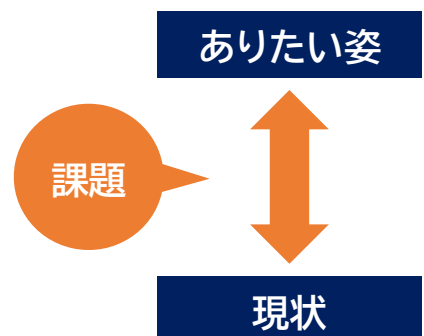
次の考え方を持って話し合い、課題と解決方法を見つけていきます。

課題 = 「ありたい姿と現状のギャップ」

- 「自分が目指す姿」を考え、「現状」を知り、比べることで、課題がはっきりしてきます

私たちの「ありたい姿」と「現状」は？

- みんなの考える「私がいたい場所」が、居場所づくりにおける「ありたい姿」の本質
- 身の回りにいる“困っている人”が今いる場所、おちいっている状況が「現状」



▶ 課題と改善策の見つけ方

課題に自分ごとで向き合う

どうすれば課題を解決できるか、
自分の身の回り、生活の中で感じること
 から考えて、少しずつ広げていきましょう



- 私にできること・一人ひとりができること → 個人の役割
- ひとりでは無理だけど、何人か集まればできそう → 地域の役割
- 広範囲・一律的な取り組み、決まり事が必要 → 行政の役割
- いち住民や行政だけでやるには向いていない → その他(企業など)

▶ 改善提案シート

今回のゴールも、みなさんが「改善提案シート」を書くことです。
 ここに書く内容を、グループワークで見つけてください。

【記載イメージ】

課題	公園が利用されていない		議論を踏まえて感じた現状の課題を記載
	(だれが)	(何を)	
改善提案	個人(私)		知らない公園が多いので把握する
	地域		草刈りなど、公園整備をサポートする 休憩用のベンチを提供する
	行政		(市)街の中にある遊び場の情報を、市全体から収集する (公民館)地域サロンを開き、地域に特化した情報を、地域住民へ提供する
	その他 ()		個人や地域、行政以外で、改善をお願いする主体があれば記載 (民間企業やNPOなど)

課題とその解決に向けた方法を記載
 ◆だれが?
 ◆何を?

改善提案シートには、「グループの総論」ではなく、「話し合った結果、私の考えたこと」を書く。

- ここに書かれた内容が「提案書」に反映されていく。
- グループで発言されなかった内容や、他の人たちと違う考えを書いてもOKただし…
 - 他人任せにしないために「個人でできること」、「地域でできること」から考える。
 - 言いつばなし・他人任せで終わらないために、なるべく具体的に。

▶ この場のルール

誰かの発言中は「聞く」姿勢

- 頭ごなしに否定してはいけません
- 発言をさえぎってはいけません
- ファシリテーターだけはSTOPをかけられます！

年齢・肩書・立場に こだわらない&気にしない

- 重要なのは“誰が言ったか”ではなく“何を言ったか”
- 「偉い人がこう言った。だから私の考えは間違っているんだ」と思わない
- 「コイツ若造のくせに…」もNG

かっこつけない

- 「すごいこと言ってやろう」と思わない
- 生活する中で感じることから生まれる考えこそ本質

「自分ごと」で考える

- 「誰かがやればいい」ではなく、「私にできること」を考えのベースに
- 周りの人のこと、企業のこと、行政のことといった「誰か」のことも「自分に関係のあること」として捉える

▶ グループワークの結果

グループ1 子ども・子育て

▼「家」での居場所

家庭の状況は、共働き、ひとり親など様々。子育てでは「お母さん」の負担が特に大きいと感じる。

大きな負担となっているポイントは「食事」。メニューを考えるのも苦労する。

- お母さん向けの美容教室を、キッズスペースとセットで開催（あずかってもらいながら母親が教室受講）
- 子育てメニューを市報・SNSで発信する（市報は忙しい人は見えない）
- 地域では、飲食店組合で料理教室などの場をつかって発信する

▼地域で子育て（安心安全な地域）

- 「あいさつ」が減っている
- まずはあいさつが大事。お互いの顔を知る
- うすれいく近所のコミュニティを挨拶から復活させていきたい
- いま地域でやっている「花の街とみおかプロジェクト」を、より拡充すると、花を傷つけないようにみんなが気をつけるようになって、交通ルールも良くなるのではないかと
- 防犯カメラが設置されていることをもっと周知することで、抑止力が生まれて防犯につながる
- 樹木の整備や道路に荷物を置かないなど、各個人で地域の安全を守る
- 高齢者と子どもが一緒になって楽しめる行事として、地域の伝統行事を高齢者から教えてもらいながら、昔の遊びを覚えてもらう
- 上信電鉄とコラボして、小さい子どもの絵や工作で飾り付けをした子連れ向け車両を走らせたい

▶ グループワークの結果

グループ2 若者・単身

▼イベントが交流を生む

高校生目線で集まる理由を考えると、やはり「イベント」が必要。

- イベントがなければ、わざわざ交流を持つ気になれない
- ただイベントがあるだけではダメ。楽しそうでないと集まらない
- イベントが開催されることが知らされてなければ意味がない
- 幅広い世代が集まれる機会が欲しい

▼「若者が集まるイベント」ってどんなもの？

若者から意見を集める必要がある。

- 「若者は何を求めているか」を、若者から出してもらう
- 若者だけを集めて話し合えばよい
 - 円卓会議でも、若者だけで構成されたグループをつくって意見出ししてもらう
- コンテストやスポーツ大会を、企業同士で開催する

▼日常の中で感じること

高校生目線で考えると、「勉強する場所」が欲しい

公民館を使っていいのだろうが、使い方を知らない

- 出入りしていい時間や使い方を、もっとちゃんと教えて欲しい
- 学校と協力して、学校から情報を高校生に届けて欲しい

▶ グループワークの結果

グループ3 障がい者とその家族

▼「障がい」を知らない

- PTAの催しで体験会(車いすやブラインド体験)
- 社会福祉協議会(社協)で道具を貸し出している
- その他社協で、学校向け講習会、手話教室、その他講演会
- これらのことが行われていることを、私たちもよくわかっていないし、世の中で知られていない
- 「見えない障がいを持っています」キーホルダーや、「ちょうちょマーク(耳が聞こえにくい人のマーク)」の存在も知られていない

もっと知ってもらうためには…

- 各戸が持っている、常に家にあるものに広報を載せる
- たとえば「自主避難計画」自主避難計画に載せてあることで、災害時の救助や助力にも役立つ

▼「壁」

- 特別支援高では、地域のゴミ拾いをしている
- 地域の人々も一緒にやれると良い

- 地域側も、一緒に活動したいと思っている

➢ お互いが思っているのならば、声を掛け合えば実現できる

- 体育館をつかって地域のスポーツ交流をするのも良い
- 地区のスポーツイベントに、富小でなく支援学校の体育館を使うこともできるのでは

- もし障がいを持つ人、マークを付けている人を見かけたら、声をかけてみて欲しい
声に出せないだけで、何か困っていることがあるかもしれない

▶ グループワークの結果

グループ4 高齢者

▼高齢者の居場所が足りない

- 高齢者が集まりやすいイベントを増やす
- お祭り
- 麻雀
- 野菜市
- グラウンドゴルフ

▼高齢者“だけ”の居場所ではなく、別の意味も持たせたい

- 来てくれた子どもにお菓子を配る
- 集まった・集めた高齢者は、特技や経験を活かせる場所にする
- 集まった・集めた人が何ができるかによって変わるが、伝統・趣味・昔のことを教える場所にする

▼会場はどこにするか

- 城町公園
- 城町広場
- 特別支援学校

- 行政には、会場となる公園の整備を行ってほしい

▶ 次回

- 第4回は、12月16日(土) 13:30~16:30
- 今回のアンケートと改善提案シートの結果を取りまとめた結果からコーディネーターが論点を提示し、それをもとに話し合う
- グループワークは第4回が最後
(第5回は、第4回までの改善提案をもとにつくられた提案書の素案に対し、全体会で意見を交わす)